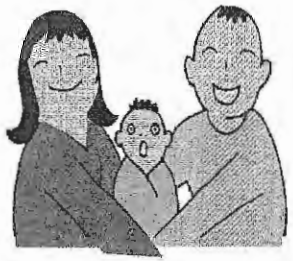
協同活動強化
第１３次３か年運動　（平成２５年度～２７年度）

“安心して暮らせる地域社会をめざして”



ＪＡ福光　２０１４．１

協同活動強化第１３次３か年運動（平成２５～２７年度）

“安心して暮らせる地域社会をめざして”

☆「次代へつなぐ協同」
☆「ＪＡ福光らしい組織運動の展開」

営農

地域資源の未来への創造

Ⅰ．農業・農村を支える多様な担い手づくりの実践

Ⅱ．地域農業を支えるものづくりの実践

Ⅲ．「安全・安心・信頼」される福光農業ネットワークの創造

生活

豊かで暮らしやすい地域社会の実現に向けて

Ⅰ．地域のライフラインを支えるＪＡとしての総合機能の実践

Ⅱ．「安全・安心なくらしの実現」に向けた協同活動の実践

Ⅲ．地域コミュニティの活性化に向けたＪＡ地域くらしの実践

経営

次代と共に存立する「地域に根ざした協同組合」を目指して

Ⅰ．ＪＡ福光らしい安全･安心な経営基盤戦略の実践

Ⅱ．ＪＡの経営を支える健全性の維持・向上

協同活動強化第１３次３か年（Ｈ２５～２７）運動の取組経過

年度	年月日	事項	内容
平成２５年度	H25年　５月２５日	通常総代会	第１３次３か年運動の計画（一年目）
	８月　９日	ＣＩ研究会発表	
	１１月１４日	業務研究会発表	
	１２月　４日	協活正副幹事長会議	
	１２月１３日	協活正・副部会長、役員専門委員会正・副委員長合同会議	第一年度(H25)実践状況と計画の見直し
	１２月２０日	協同活動強化運営審議委員会全体会議	
	１２月２５日	地区代表者会議	
	H26年　１月２１日	地区センター協同活動推進協議会	第一年度実践状況の報告と 第二年度計画見直しの審議
	～ １月２４日		
	２月	集落座談会	
平成２６年度	H26年　５月	通常総代会	第１３次３か年運動の計画（二年目）
	８月	ＣＩ研究会発表	
	１１月	業務研究会発表	
	１１月	協活正副幹事長会議	
	１２月	協活正・副部会長、役員専門委員会正・副委員長合同会議	第二年度(H26)実践状況と計画の見直し
	１２月	協同活動強化運営審議委員会全体会議	
	１２月	地区代表者会議	
	H27年　１月下旬	地区センター協同活動推進協議会	第二年度実践状況の報告と 第三年度計画見直しの審議
	２月	集落座談会	
平成２７年度	H27年　５月	通常総代会	第１３次３か年運動の計画（三年目）
	６月	ＣＩ研究会発会式	
	６月	協活幹事会員の任命・幹事会の開催	第１４次３か年(H28～H30)計画検討の着手
	７月	運営審議委員会全体会議	審議委員の委嘱、正・副部会長の指名
	７月	各部会毎に検討審議(7月～11月)	営農・生活・経営部会毎に審議
	８月	ＣＩ研究会発表会・　業務研究会発会式	
	１０月	第２７回ＪＡ全国大会	
	１１月	業務研究会発表	
	１１月	第４６回JA富山県大会	
	１２月	協活正副幹事長会議	
	１２月	協活正・副部会長、役員専門委員会正・副委員長合同会議	
	１２月	協同活動強化運営審議委員会全体会議	第１３次３か年運動実践状況の報告と 第１４次３か年運動実践計画の提案
	１２月	地区代表者会議	
	H28年　１月下旬	地区センター協同活動推進協議会	地区センター毎に審議、意見交換
	２月	集落座談会	

第１３次３か年運動の実践

（H25 ～ H27）

◎ メインテーマ

安心して暮らせる地域社会をめざして

「次代へつなぐ協同」

「ＪＡ福光らしい組織運動の展開」

○ サブテーマ

・地域資源の未来への創造

・豊かで暮らしやすい地域社会の実現に向けて

・次代と共に存立する「地域に根ざした協同組合」を目指して

☆第１４次３か年運動実践計画策定

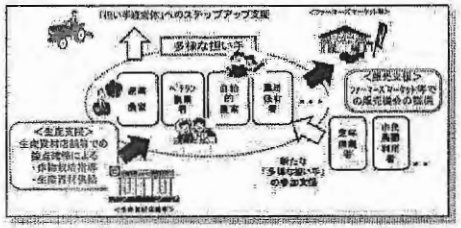
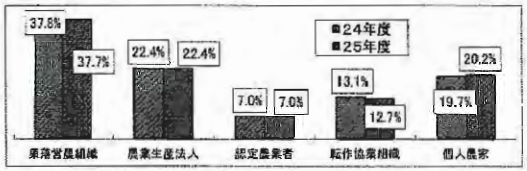
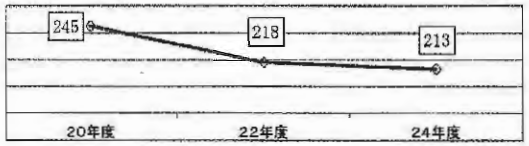
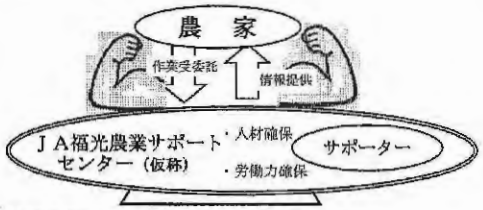
第１４次３か年計画

「安心して暮らせる地域社会をめざして」

営農部会　地域資源の未来への創造

NO. 1

△-検討・計画　○-実践

課題	現状（平成２５年）	対応策	H25	H26	H27
Ⅰ．農業・農村を支える多様な担い手づくりの実践 １．ＴＰＰ交渉参加問題	・ＴＰＰ交渉から「食と暮らし・いのち」を守り国会決議の実現を求める全国代表者集会　１０月２日 ・ＴＰＰに関する全国集会及びデモ行進　１２月３日	・継続	○	→	→
２．良質・多収性新品種栽培の確立	**◎良質・多収性新品種栽培の検討**	**◎安定したふくみつ米の流通販売戦略に向けた良質・多収性新品種の導入**	△	- - -	→
３．次代へつなぐ地域農業の確立 １）担い手経営体の後継者確保 （認定農業者、農業生産法人、集落営農組織） ・担い手への農地利用集積 ２）多様な担い手（兼業農家・個人農家）の人材確保 ・認定農業者、営農組織へのステップアップ  ３）農村社会の活性化（むら機能の維持、充実）	《 福光における経営形態別経営面積の実態 》　平成２５年２月末現在  福光地域農業マスタープラン ※平成２５年１月１８日、福光１１地区「人・農地プラン」の認定 **◎ＪＡによる「農業サポート」の創設検討**  ○営農組織の高齢化及び後継者不足 ○遊休農地・不耕作農地の有効活用 ○水田の作業受委託 単位：ha	○担い手経営体への支援強化 ・農地集積、経営管理、金融相談などの支援体制の構築 ・農協単独支援事業の見直し ・集落営農組織の「法人組織」への誘導 **◎地域密着型の営農組織体制の確立** ☆ 高齢化・後継者不足・・・ →→ 農業経営の継続が難しい・・・ →→ 集落、地域機能の低下・・・ ★ 営農活動のサポート充実・強化・・・ ◎持続可能な地域農業の実現 ○「人・農地プラン」の実行と更新で担い手の明確化 ・地域の中心となる担い手を明確にし農地の集積をはかる ・農地集積協力金の活用 ・青年就農者給付金等の支援対策の推進 ・女性就農者の参画促進 **◎ＪＡによる「農業サポート」のステップアップ** ○人材の育成・確保 ・後継者育成によって、安定的な労働力確保 ・農地の管理によって、耕作放棄地や不作付地の解消 ・繁忙期が重なる時期でのサポーター派遣  **○地域範囲を超えた作業協定の連携** ・営農組織間での情報の共有化、作業受委託、機械リース等の連携	△ △ ○ △ ○	- - -	→
４．満足感ある農機サービスの提供 １）低コストを目指す高性能農機具の導入指導 ２）営農組織等のオペレーターを対象とした点検・整備技術指導	○農作業事故の発生防止 ・農機整備出張講習会の実施　7回実施 ・労働安全衛生法によるフォークリフト運転技能講習会の開催　8名　延べ９７名 ・農作業事故発生件数　４件	○農作業安全運動の強化 ・地域全体での農業作業安全講習会の開催 ・オペレーターへの点検・整備技術指導の徹底	○	→	→

福光地域農業マスタープラン

福光地域	耕作面積 (ha)	中心となる経営体の数 (組織・人)	後継者の有無 有 (組織・人)	後継者の有無 無 (組織・人)	中心となる経営体の集積面積 (ha)	活用が見込まれる農地数 農地法人 (組織・人)	活用が見込まれる農地数 青年就農給付金 (個人・人)	連携する農業者数 (組織・人)	活用する面積 (ha)
合　計	2,491.7	105	100	5	1,890.0	66	6	24	16.1

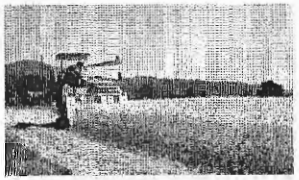
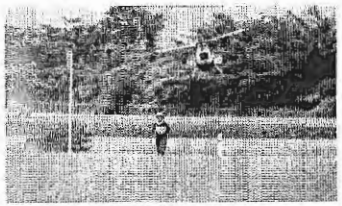
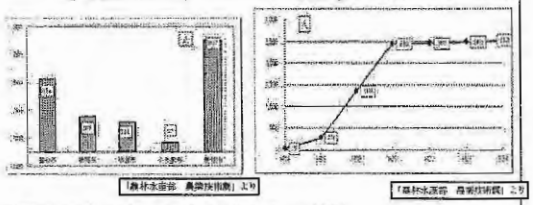
単位：ha

作業名	２３年度	２４年度	２５年度
無人ヘリ防除作業	2,250	2,480	2,530
土改材散布	161	145	46
農地利用集積	340	350	384
刈取作業	207	191	55

遊休地を活用したキャベツ栽培

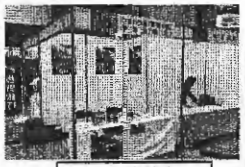
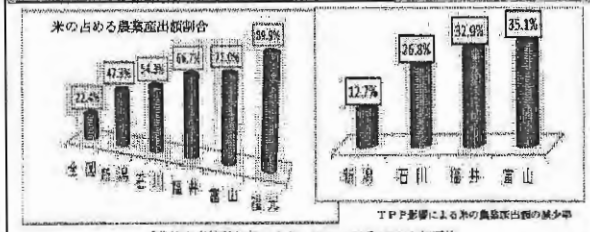
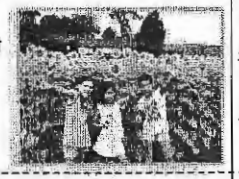
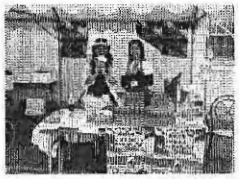
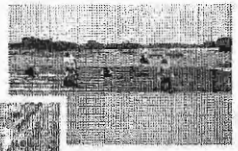
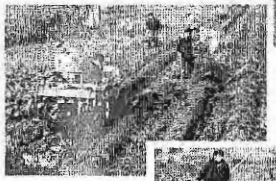
営農部会　地域資源の未来への創造

△-検討・計画　○-実践

課題	現状（平成２５年）	対応策	H25	H26	H27
Ⅱ．地域農業を支えるものづくりの実践 １．高品質な農産物の安定生産に向けて １）土づくりを基盤とした環境にやさしい農業の確立  ２）水稲の直播栽培による作期拡大と低コスト体系の確立 	◎地区単位水田有効活用の推進 ○麦跡を活用した二毛作体系の推進 → 大麦作付面積　203.1ha 大麦→大豆：83.7ha　大麦→黒豆：0.2ha　大麦→野菜：7.0ha 大麦→景観作物：17.3ha　大麦→クロタラリア：64.5ha　大麦→ソバ：5.8ha 計 178.5ha ○水稲地力増強作物体系の推進 緑肥：7.5ha　景観作物：3.0ha　牛糞籾殻堆肥：43.5ha 計　54.0ha シリカロマン：1,783ha → 水稲面積全体の約89% ○園芸地力増強作物体系の推進　ひまわり油粕　計 2.0ha ○エコファーマーの推進 エコファーマーの認定人数　園芸:188名　水稲:35名　計 223名 ○水稲直播栽培の推進　栽培面積（95.5 ha　前年比：102.3%） 水稲湛水直播の栽培面積　40.6ha（前年比：100.7%） 鉄コーティング直播の栽培面積　38.0ha（前年比：125.4%） 水稲Ｖ溝乾田直播の栽培面積　16.9ha（前年比：75.8%）	・継続 【富山県エコファーマーの認定状況】（平成25年3月末現在）  ○環境保全を考慮した営農活動の推進 ・土づくりに関する技術（堆肥の施用、緑肥等） ・化学肥料使用技術（肥効調節型肥料の施用） ・化学農薬使用技術（直播栽培の実施、生物農薬の使用） ・バンカープランツ技術（天敵昆虫等の増殖） ○水稲直播栽培技術の確立	○ →	○ →	○ →
			エコファーマーの認定目標人数		
			２２３名	２５０名	３００名
			○ →		
			水稲直播実践目標面積		
			95.5ha	150ha	200ha
２．生産・販売とタイアップした生産資材の供給 １）一括仕入れに対するメリット還元 ２）競合店に対抗できる弾力的な価格設定 ・窓口での的確で明確な営農指導強化	○営農組織と連携した生産資材等直送利用システムの実施 ・営農組織・担い手への事前説明会の開催と個別訪問 ・全農肥料直送システム導入によるメリットの確保 ・営農指導と連携した営農資材選定（効果試験等）の実施 ○季節感のある企画、年間キャンペーン等の実施 ・アグリ配送センター：７回/年　・う米祭：８回/年	◎営農組織及び担い手と連携した 生産資材等直送利用システムの拡充 ○営農総合店舗化・配送システムの検討 ・ＪＡらしい生産資材店舗の見直し 誘導、品揃え、陳列、清潔、季節感ある販売促進 ・継続	○ →	△ - - -	○ →
３．園芸・畜産・農産物加工による 高付加価値戦略 １）営農組織等における経営の複合化と新たな産地の形成 ・複合化による付加価値の確保 福光協業組織水耕栽培視察研修 ２）福光独自の販売戦略 ・新たな販売ルートの確保 	**◎１地区１特産品開拓運動の展開** 『園芸所得増大１・２・３』戦略プランの実践 《２５年度特産物の栽培総面積と総生産額の現状》 単位：ha、万円 ステップ２ 品目：アスパラガス／ブロッコリーキャベツ／唐辛子 0.3 黒大豆 1.6 向日葵 15.1／青苗ハウス野菜／畑地野菜／加工かぶ／産直野菜／合計 面積：2.4／2.7／17.0／0.2／16.0／2.5／0.7／35.5 生産額：625／380／120／201／1,600／500／1,528／4,754 目標面積対比：28.9%　目標生産額：47.5% ☆ 栽培技術の確立と機械装備の充実 ☆ 収量及び品質の確保 ☆ 契約栽培の確立と栽培面積の拡大	**◎１地区１特産品開拓運動の継続** 『園芸所得増大１・２・３』戦略プランの確立 【２７年度計画の目標】総生産額：１億円　栽培総面積：１２３ha 石黒：アスパラガス ハクスビーマシ ブロッコリー 広瀬：アスパラガス ハウストマト 向日葵 広瀬館：アスパラガス ブロッコリー 向日葵 西太美：アスパラガス ブロッコリー 唐辛子 太美山：アスパラガス 黒大豆 向日葵 東太美：アスパラガス ブロッコリー 向日葵 黒大豆 古江：アスパラガス かぶ 向日葵 北山田：ブロッコリー かぶ 向日葵 山田：アスパラガス ブロッコリー 黒大豆 南蟹谷：アスパラガス 銀杏 向日葵 福光：ブロッコリー かぶ 唐辛子 《２７年度計画　品目ごとの目標値》 単位：ha、万円 ステップ３ 品目：アスパラガス／ブロッコリーキャベツ／唐辛子 1 黒大豆２０ 向日５０／青苗ハウス野菜／畑地野菜／加工かぶ／産直野菜／合計 目標面積：20.0／15.0／71.0／0.6／13.0／2.5／0.9／123 目標生産額：2,600／2,600／1,000／900／1,700／800／400／10,000	○ →	○ → ○ → ○ ステップ２　ステップ３	

営農部会　地域資源の未来への創造

△-検討・計画　○-実践

課題	現状（平成２５年）	対応策	H25	H26	H27
３）加工事業の導入による付加価値向上 ・ブランド化への取組み 栽培・加工・販売ノウハウの取得 ・原材料の多様化活用と販路の確立 東京アンテナショップ  北陸商談会	◎６次産業化と「ブランド化」の検討  「農林水産統計年報」より、H18～H22までの５年平均	◎６次産業化と「ブランド化」のステップアップ ○地域特産加工品（農産加工品）の開発と生産・販売 ・地元農畜産物を活用した ＪＡふくみつブランド商品の開発・販売 ・加工グループ等の連携による商品開発 ・通年加工、販売の確立を見据え地区センターの施設活用整備 様々な「地域資源」を活用 → 新たな加工・販売への取組み → 加工施設の整備・調理室の設置（加工品の開発）	○ →		
４）高齢・女性農業者にマッチした営農活動の提案と指導	◎ひまわり油「南砺の恵」、芋焼酎「福光」の販売拡大 南砺の恵：２３年度 －、２４年度 2,234本、２５年度 1,469本 芋焼酎「福光」：２３年度 795本、２４年度 823本、２５年度 620本 ・ひまわり油「南砺の恵」、芋焼酎「福光」東京アンテナショップへ出品 ・ＪＡグループ・ＪＦグループ北陸商談会への出品（３社との商談） ・ひまわり油「南砺の恵」がＥマーク「富山県地域特産品」に認証 ・「唐辛子」の商品研究・販売 ・女性部活動と連携した特産物等の育成	◎農商工連携の強化による商品アイテムの開発・販売 ・「南砺の恵」ひまわり油を活用した新たな商品開発 手作り浴用石鹸、ハンドクリーム、リップクリームの商品化 自然の恵みでつくる蜂蜜、ドレッシングの商品化 ・芋焼酎「福光」原材料の生産と醸造・販売促進 ＪＡライフと提携した販売促進 ・芋焼酎「福光」販売資格の取得検討  ○ひまわり祭りの開催 ・継続	○ →		
５）地場産農産物の提供 	○地産地消の推進でふくみつの米や野菜を供給 ・学校給食の供給体制　福光管内小中学校　（５校） ○「ＪＡ福光産直倶楽部」の活動強化 産直倶楽部会員数　：　19組織、56個人 ・う米蔵、サンキューフレッサ店産直コーナーへ出品	・学校給食への食材提供継続 ・継続	○ →		
・周年栽培（販売）体制の確立   芋焼酎「福光」原料芋の定植、収穫	○「園芸・実証田」の設置 ・立野ヶ原畑地の遊休農地・不耕作農地の有効活用 ブロッコリーの栽培３０a、アスパラの栽培２０a 不作付面積年次毎の推移 	○「園芸・実証田」の継続 ・立野ヶ原畑地の遊休農地・不耕作農地の有効活用の拡充 ・遊休農地の活用による農地の高度利用 ・市街地近郊での「ふれあい農園」の設置 ◎「観光農業」・「オーナー制農業」の取組み	○ →		
	◎営農指導体制の充実 ○営農指導員の集中化による指導体制の充実 ・１地区１名指導員体制での指導強化 ○品目専任指導員の配置 ・主穀作（５名）園芸（４名）農政（２名）の指導体制	◎出向く営農指導体制の強化 ○営農指導員の集中化による営農指導体制の強化 ・経営指導、技術指導、生産、購買、販売の一環した指導 ○品目専任指導員体制の充実・強化	○ →		